

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【さいたま市立常盤小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	- ICTの利活用を含めた基礎的・基本的な知識・技能の定着や学力の維持・向上を図ることはできている。 - 習熟の不十分な教科・領域等があることから、学年毎の特性を考慮しながら習熟を図っていく必要がある。また、個人差の幅をなるべく小さくできるよう、学習支援の在り方を工夫・改善していきたい。
思考・判断・表現	- 各教科の単元における振り返りとして、小論文を継続して取り入れてきたことで、学習してきた内容を再整理していくことが思考の深化につながっているため、今後も継続して取り組ませていきたい。 - 学年の発達段階に応じて、小集団の意見交換を通して自分の考えをまとめていく活動や、収集した情報を関連付けて考察する活動を積極的に取り入れ、「考える力」を伸ばしていけるようにしたい。

今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な学力は全体的に定着しているものの、国語の主語・述語の即応関係では多くの学年で課題がみられた。 <指導上の課題> 定着度に個人差があり、児童個々への対応を効果的に進め、定着度の差をできるだけ小さくしていく必要がある。	・スクールタッチボードの学習履歴を活用したり、SA等による個別指導を行ったりするなど、学習の個別最適化を図る。【月1回以上指導方針を確認】 ⇒ ・スタディサプリやドリルパークなどを活用し、課題に関連した問題に繰り返し取り組む機会を設ける。【事前学習・家庭学習等で実施】 ・単元ごとに小論文に取り組ませ、その単元での学習を振り返り、内容の定着を図る。【各教科の単元ごとに実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 基礎的・基本的な学力は全体的に定着しているものの、算数では、適切なグラフの選択や単位量あたりの大きさを比較する際の立式等、根拠を明確にすることについて課題がみられた。 <指導上の課題> 内容を直線学習する単元が少なく、繰り返し取り組み思考を深める機会が不足している。	⇒ ・算数では、問題の立式に際して数量を吟味・検討し、妥当性を確認する活動を取り入れるなど、常に課題を意識した学習過程を組み込む。【授業毎に設定】 ・他教科でグラフを取り扱う際に、読み取り方のポイントを示すなど、視覚情報から多面的に思考できるようにする。【関連教科で実施】 ・ICTの利活用を進め、協働学習を通して「本気の学び」を引き出す授業を展開し、児童一人ひとりの思考を深化させる。【授業毎に実施】

<小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	・ドリルパーク、スタサプ等の学習アプリの利活用やSA等による個別指導により、基礎・基本の定着や個々への対応を充実させることができた。ICTの利活用を向上させることで学習の最適化についてはできたものの、スクールタッチボードの活用については課題が残るため、方法について検討していきたい。 ・昨年度までの課題に対する指導を、各学年の発達段階に応じて行ってきたことにより、成果が見られた内容が多かった。
思考・判断・表現	B	・単元毎の小論文での学習の振り返りを繰り返し取り組むことで、その内容が充実し、学習内容の定着と思考の深化につながった。また、ICTの利活用や小集団活用による協働学習を積極的に取り入れたことで、相互のコミュニケーションが活性化し、思考を深めることにつながっていた。今後も継続していくことで、さらに充実した活動ができるものとする。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	・国語及び算数の「知識・理解」は、全国平均を大きく上回っており、昨年度までと比較して同等の結果となっている。 ・国語では、昨年度の市学習状況調査で課題となっていた、主語と述語との関係を探る問題において、全国平均を大きく上回る結果となっている。 ・算数では、問題場面の数量関係を捉えて立式したり、その計算を行ったりすることについて、全国平均を大きく上回る結果となっている。
思考・判断・表現	・国語及び算数の「思考・判断・表現」は、全国平均を大きく上回っており、昨年度までと比較して同等の結果となっている。 ・国語では、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。全国平均は上回っているものの、条件を満たすよう記述することができていない割合が高かった。 ・算数では、表やグラフから必要な数値を読み取り、言葉や式を用いて記述することに課題があった。全国平均は上回っているものの、条件を満たすよう解答ができていない割合が高かった。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	・調査結果の市平均を上回っており、基礎的・基本的な知識・技能の定着や学力の維持・向上を図ることはできている。 ・理科では「粒子」を柱とする領域での物の体積と温度の関係について、また、「地球」を柱とする領域での地層の形成と堆積物の関係について、正しく理解されていない結果となっており、可視化することが難しい事象についての概念的理解と定着に課題が見られた。 ・算数では「データの活用」におけるグラフの正しい読み取りに課題が見られ、その習熟が必要である。
思考・判断・表現	・調査結果の市平均を上回っており、前年度までと同程度の水準を維持している。学習ツールとしてのICT活用と従来の学び合いがバランスよく実施されてきた成果と考える。 ・国語では「話すこと・聞くこと」において、意見の共通点や相違点に着目し、考えをまとめることに課題が見られ、要点を捉えた話の聞き方が身に付くような指導の工夫が必要である。 ・社会では「歴史と人々の生活」で、年表や具体的史実から何がどのように行われたか、その過程を読み取ったり考えたりすることに課題が見られ、読み取った情報の整理や関連付けて考えられるような指導の工夫が必要である。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	・年度当初に昨年度の課題と改善策を周知し、各教科でそれを意識した指導を行っている。基礎・基本の定着について、ICTの利活用を中心に据えた個別最適な指導をこれからも継続して行うことにより、高めていけるようにしていきたい。	変更なし
思考・判断・表現	B	・各教科でのまとめや振り返り等、思考場面での目的に沿った、自分の考えを記述する活動を取り入れ、指導を行ってきた。今後もその指導を継続することで、目的や意図に応じて自分の考えをまとめる力を高めていきたい。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【常盤小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語…思考・判断・表現力における「書く」領域 算数…「データの活用」 <指導上の課題>児童個々への対応を効果的に進め、定着度の差をできるだけ少なくしていく必要がある。	⇒ ・スクールダッシュボードの学習履歴を活用したり、SA等による個別指導を行ったりするなど、学習の個別最適化を図る。【月1回以上指導方針確認】 ・1人1台端末を活用し、スタディサプリやドリルパークによる個別最適化問題演習に取り組む機会を設ける。【業前学習、家庭学習等で実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語…思考・判断・表現力における「書く」領域 算数…「データの活用」 <指導上の課題>内容を直接学習する単元が少なく、繰り返し取り組んだり、思考を深めたりする機会が不足している。	⇒ ・他教科でグラフを取り扱う際に、読み取り方のポイント示すなど、資格情報から多面的に思考できるようにする。【関連教科で実施】 ・自分の考えを相手にわかりやすく伝えるための工夫を意識できるよう、授業改善を図る。【国語科を中心に各教科で毎時間】

⑤	評価(※)	調査結果と学力向上策の実施状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語・算数の「知識・技能」は、全国平均を大きく上回っており、昨年度までと比較して同等の結果となっている。理科においても全国平均を大きく上回る結果となった。国語では、言葉の違い、漢字、世代による言葉の違いを見る問題において8割以上の正答率となっており、基礎学力が定着していることがわかる。算数では、単位量あたりの数を分数を用いて表す問題の正答率が低い結果となり、複数の既習事項を関連付けて考える力が課題がある。また、理科では、アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ問題の正答率が低い結果となった。課題のある学習内容について知識の確実な定着を図っていきたい。
思考・判断・表現	国語・算数の「思考・判断・表現」は、全国平均を大きく上回っており、昨年度までと比較して同等の結果となっている。理科においても全国平均を大きく上回る結果となった。国語、算数、理科共に記述式問題の正答率が低い結果となり、問題に即して、自分の考えを適切に書き表す力に課題が見られる。特に国語の、「目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる」問題においては無解答率も1割近くになっている。また、算数の棒グラフから読み取ったことを書く問題においても、正答率が低い結果となった。本校児童の基礎学力の高さを十分に発揮できるよう、自分の考えをまとめ、記述する等の「考えを書く」指導を意識的に行っていく必要がある。

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	基礎・基本の定着について、ICTの利活用を中心に据えた個別最適化指導をこれからも継続して行うことにより、高めていくようにしていきたい。	・2学期となり、個別指導、個別支援が必要な部分も見えてきた所であるので、適切にSA等を配置し、知識・技能の全体の底上げを図っていく。【月1回以上指導方針確認】 ・低学年においてもICTの活用が進んできたので、引き続きスタディサプリやドリルパークの活用を進めていく。【業前学習、家庭学習等で実施】
思考・判断・表現	B	全国学力・学習状況調査結果を受け、更に力を高めていくという視点で、授業でのまとめや振り返り等の時間を活用し、自分の考えをまとめ、記述する等の「考えを書く」指導を意識的に行っていきたい。	・学校課題研修で行った自校アンケートにおいて「考えを相手にわかりやすく伝える」に関する項目に課題があったことを児童に伝え、課題意識をもてるようにした。引き続き、学校全体で自分の考えを相手にわかりやすく伝えるための工夫について意識できるよう、授業改善を図る。【国語科を中心に各教科で毎時間】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)